牛久むかしばなし《其の四》

「酒島の霊泉」

問 広報広聴課
☎内線3221、3222

むかし、むかし、下根の郷に八兵衛さんという若者がいました。村でも評判の働き者でした。下根の田んぼは、高台の下に広がり、近くを小野川が流れていました。田んぼの真ん中に島のような土地があって、木が生い茂り、泉がこんこんと湧き出ていました。村人達は、仕事の合間にここに集まり、骨休みをするのを楽しみにしていました。

ある秋、激しい嵐に見舞われました。篠を突くような雨が一晩中降り続き、小野川はたちまち氾濫し、稲架けはたおれ、稲束が流されていきました。次の朝早く、八兵衛さんが流された稲束を拾い集めていると、小野川の上流から、浮きつ沈みつ、みこしが流れて来るではありませんか。

八兵衛さんは、とっさに野良着のまま川に飛びこみました。渦を巻いて流れる中を、みこしまで泳ぎつくと、懸命に岸の方に押して行きました。流れにうまく乗せながら、やっとの思いで島まで運びました。

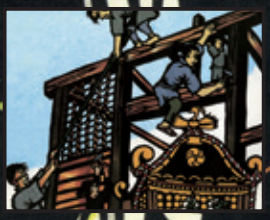
八兵衛さんとみこしの話は、たちまち村中の評判になりました。

「どっから来たみこしだっぺ」

「せっかく神渡りして来たんだから、おら方でめんどうみるべや」

村の人達は、泉の湧くその島に、祠を造って祀ることにしました。

信心深い八兵衛さんは、朝に夕に島の神社にお参りし、泉の水を汲んでは病気がちのおじいさんに飲ませました。おじいさんはずい分元気になり、村の中でも「泉の水は体のためにいい」という話が広まりました。



翌年、田植えが終った村人達は、霊験あらたかなこの神社に、豊作を祈願しようと集まりました。

「おやおや、何か匂うぞ?」

「どれどれ。ううん、酒の匂いだ!」

村人達は、びっくりするやら、喜ぶやら、たいへんな騒ぎになりました。

「不思議だなあ。酒が湧いて来るなんて」

「八兵衛さんがみこしを助けたので、神様が下さったんだねぇか」

島は、のど湿しに来る人、お参りに来る人などで、ますますにぎやかになりました。この不思議な泉を、「酒島の霊泉」と呼ぶようになりました。

この不思議な泉のうわさを聞いて、悪者達がたむろするようになりました。彼らは、泉を囲んで毎日酒盛りをしていました。村人達はだんだんと近づかなくなり、お参りする人も少なくなってしまいました。

その後、いつの間にか悪者達の姿が見えなくなりました。様子を見に集まった村人達は、がっかりしました。

「なんだこれ、ただの水でねえか」

「酒の味なんかしねえぞ」

「悪者達が手をつけたんで、神様が酒を止めてしまったんだ」

「ここの酒を楽しみに働いていたのに…」

島に集まる楽しみを奪われた村人達は、働く元気を失い、村の活気もだんだん衰えていきました。

これには八兵衛さんも困ってしまい、近くのお寺の坊さんに相談しました。坊さん達はいろいろ考えた末「かわりに濁酒を造ろう」ということになりました。

坊山から島の泉まで、ひそかに地獄樋を作り、村人達の仕事が終わるころを見はからって濁酒を流しました。

一度は止まってしまった酒がまた湧き出し、村人達は大喜びです。

「酒島の霊泉」の名が、近くの村々にまで広まるとともに、下根の郷にも、もとのにぎわいがもどって来ました。

※地獄樋…竹筒等を地中に埋めて水を流すしかけ

「牛久のむかしばなし五 酒島の霊泉」より抜粋(「牛久の昔話」編集委員会・編集、武川秀男・絵 牛久市立図書館発行 1994年)

牛久市市制施行40周年

酒島のお話をめぐる

「酒島の霊泉」は、東大和田、中根、下根地区に古くから伝わる物語です。

お酒が湧き出たとされる古井戸は、「五十瀬神社(下根町)」の境内に残り、今も地域住民によって大切に守られています。

また、ひたち野うしく駅前(西口・東口)には「酒島の霊泉」をテーマにした4つの広場があり、この物語の各場面を楽しむことができます。

＼ひたち野うしく駅のモニュメントを探してみよう!／

❶八兵衛さんの広場 ❷うねりの広場 ❸御輿の広場 ❹泉の広場